

令和6年度第2回狹山市まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録

開催日時 令和7年3月26日 午後1時30分～午後3時

開催場所 狹山市役所6階 602会議室

出席者 9名

欠席者 1名

市側出席者 企画財政部長、企画財政部次長（行政経営課兼務）

事務局 企画課長、企画担当職員

会議詳細

1 開会

2 あいさつ

3 委員紹介

4 座長の選出

5 議事

- (1) 第2期狹山市まち・ひと・しごと創生総合戦略について
 - ・企画課長より説明

《質疑・意見》

委員 親元同居・近居支援補助金と若い世代の住宅取得支援補助金について、今年度末の交付件数の見込みは。

事務局 親元同居近居支援補助金については60件程度、若い世代の住宅取得支援補助金については150件程度と見込んでいる。

委員 昨年度から交付件数が減少しているが、その要因は。

事務局 市内の住宅供給状況などが主な要因ではないかと考えている。

委員 制度利用者の交付後の状況確認等は行っているのか。

事務局 制度利用者に対し、常に状況の確認は行っていないが、交付後、市内に5年間居住することを交付の要件としている。

委員 基本目標1のKPIである「ビジネスサポートセンターの相談件数」について、令和6年度の見込みが昨年度よりも減少しているが、その要因は。

事務局 ビジネスサポートセンターのスタッフ体制の変更により、一時的に相談を受けることのできる件数が減ったことが要因の1つであるが、現在は通常の相談体制に戻して運営しているところである。

委 員 基本目標2のKPIである「パブリシティ活動により本市がマスメディアで報道された件数」について、どのような点が特色のある内容として報道の対象となっているのか。

事務局 報道の対象となった明確な理由は不明であるが、市が実施する特徴的な取り組みについては、所沢の記者クラブを通じ、積極的な情報提供やPRを行った結果であると考えている。

事務局 市職員向けの研修として、メディアの方を招き、どのようなパブリシティ活動がメディアの方の目を引くのかといった内容の研修も行っている。

研修の中では、ストーリー性を重視した取り組みが記事にしやすいため、そういった取り組みを展開してほしいとのお話をいただいている。

国の補助金などにおいても、ストーリー性を重視した事業づくりが求められているため、今後も力を入れて取り組んでいきたい。

委 員 農業の担い手の確保に関する具体的な取り組みは。

事務局 資料にも取り上げさせていただいたスマートの農業促進については、農業の効率化や省力化が図られることで、農業への参入がしやすくなり、担い手不足の解消にも繋がると考えている。

また、狭山市ビジネスサポートセンターでは、農業者からの相談対応も行っており、新規就農者を呼び寄せるような魅力ある農業のPR活動等の支援を行っているところである。

委 員 農業の担い手確保に関するPR活動においても、ストーリー性をもった活動を行うことにより、記事等に取り上げられ、より発信力を強めることもできると思うので、ストーリーを伝えることに力を入れて取り組んでほしい。

委 員 「書かない窓口・行かない窓口」について、従来の通常窓口の利用割合は。

事務局 「書かない窓口・行かない窓口」と通常窓口の割合について、現時点では、具体的なデータを持っていないが、これから具体的な効果検証を行っていきたいと考えている。

ただ、「書かない窓口・行かない窓口」を利用された方へのアンケート調査では、7割以上の方から高い評価をいただいている状況であり、これからも「書かない窓口・行かない窓口」の利用割合は増えていくものと考えている。

委 員 基本目標3のKPI「支援により結婚した方の人数」について、具体的な支援内容は。

事務局 県が運営する公的な結婚支援センターである SAITAMA 出会いサポートセンターに自治体として加盟し、市民の方の登録を促進している。

狹山市民が登録する場合には、登録料が安くなるというメリットもある。

SAITAMA 出会いサポートセンターにおける具体的な取組としては、婚活イベントや会員に対するセミナー、AIによるマッチングなどにより登録者の婚活のサポートを行っている。

委 員 SAITAMA 出会いサポートセンターの利用者の年齢層は。

事務局 30代から40代の方達が中心となっている。

委 員 令和6年1月にオープンした「あいぱれっと」については、駅からのアクセスもよく、多くのこどもたちで活気があふれており、とてもよい施設であると感じている。

また、隣の入曽地域交流センターでは、オープンスペースが中高生の勉強場所として活用されている状況であることから、学生たちの交流場所として活用を進めることでより、活気があふれてよいものとなるのではないかと思う。

事務局 施設自体が認知され、口コミ等で広まることにより、さらに遠くの方からの利用者が増えていくことを期待している。

また、隣接した公有地については、民間事業者を活用し、若い世代の住宅を建設し販売することを予定しており、エリア全体で若い世代が集まるような仕掛けをすることで、相乗効果により、活気があふれるエリアにしていきたいと考えている。

委 員 保育士の確保について、現在は人員が不足しているのか。

事務局 現状、定数には足りている状況であるが、今後、さらに採用するのが厳しくなることも予測されるため、採用時期等の工夫により積極的な人員確保に向けて取り組んでいる。

委 員 次期計画の策定について、国の「デジタル田園都市国家構想総合戦略」の策定期と狹山市の計画策定期にズレが生じているが理由は。

事務局 国の「デジタル田園都市国家構想総合戦略」については、これまでの「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の名称を変更したものであり、自

治体に対し、その趣旨を踏まえた改訂等の適切な対応が求められている。

本市では、「第2期狭山市まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、市の最上位計画となる「狭山市総合計画」との整合を図っていることから、総合計画の改訂にあわせて、総合戦略を改訂していくこととしたものである。

委 員 空き家問題がどの自治体においても取り組むべき課題として顕在化してきていることから、民間事業者との連携した取組を進めてほしい。

6 閉会